

平成23年7月17日発行
第77号

発行 後援会
印南 宏
発行責任者 印南 宏



この国の政治は何をしているのか！



この国の政治は一体何を
しているのだろうか。被災
地での懸命な努力が続く一
か、日本のあちこちで一
人ひとり自分由来の食
とを何かしようとするこ
し、何をかしているのか！
首相をはじめ政治家には、
一身を捨てて「国家のため
に最善を尽くす」という危
機感、誠意がまったくない
ため、むしろ政権維持の
ためのクラス会をしていま
よ。な日本の政治の現状が
私にはとても残念でなりま
せん。
事態が一段落するまで国
家総力を維持し、皆丸
となつて被災された皆
を救済することが、政府
第一の仕事です。
今回のような原発事故で
住む場所から引き離され
るさへいつ戻れるかわか
らない皆さんや、放射能の
危険にさらされて原発の事
故処理にあたって原発の事
員、自衛隊員、消防隊の方
々に、政治が範を示し復
興はない

りえないと考えています。
政府が全責任を持って、
被災自治体と協力して復興
に全力を挙げる姿勢を示し
てほしいと思つています。
**千年に一度の大震災と
復旧・復興への責任と決
意**

私達のまち「我孫子」も、
千年に一度とも言われてい
る東日本大震災の被災自治
体の一つであり、布佐・都
地区を中心に液化化が發生
するなど大きな被害を受け
ました。
我孫子に限らず、震災後
三ヶ月を過ぎても復旧、復
興活動は今なお、現在進行
形で行われています。特に、
瓦礫の処理や福島第一原発
に端を発する放射能問題は
今世紀最大とも言える苦難
であり、解決に向けて長く、
厳しい道のりになると考え
られます。被災自治体の市
議の一人として、そして日
本の一市民として、復旧・
復興という未来の子供達に
対する責任と決意を強く感
じているところです。

♪ぜひご覧下さい♪
印南が代表を務める
「あびこ21」ホームページ
<http://abiko21.exblog.jp/>
我孫子市
公式ホームページ
<http://city.abiko.chiba.jp>

**震災の教訓を活かし、地
域防災計画の中間総括
を！**

我孫子市の防災の要であ
る「我孫子市地域防災計画」
の見直しが求められていま
す。しかし、それは、国や
県の地域防災計画の見直し
後に、取り組まれる予定で
市の防災計画と国や県の防
災計画とに齟齬があつては
ならないと、拙速な危機
感のあまりや、対策は避け
ばなりませんが、例えば、
市役所本部と被災現場との
連携、全体のコーディネート
ト機能の強化、外部との調
整、防災行政無線などの情
報伝達機能の見直し、防災
訓練の充実など、今回の震
災で得られた大切な教訓を
急ぎ中間総括して、市民と
市による共有化を行うべき
です。有識者等（独立行政
法人 建築研究所の専門
家）によつて、千葉東方沖
や東京湾北部で大津波も
たらしかねないマグニチュ
ード八クラスの巨大地震発
生も懸念されている中であ
る。早急には、可能な限り
し、早い地域防災計画を総
く、ない次の災害に備えて
す。



**放射線量の測定と
徹底した情報開示を！**

福島第一原発事故による
放射線量に対する市民の不安は、国や東京電力の初期
対応、そして最近の九州電
力の対応等の不審もあつて
非常に強いものとなつて
ます。この問題は、専門的
見地も踏まえた冷静な判断
と対処が必要とされます。
そのため、市民の安心・安
全を図る観点からも、市と
しての継続的な測定や情報
開示の徹底を含む、独自
対応も必要となります。引
き続き、市として対応に
ついて求めていく所存です。
**宏はこう考える
「環境生活常任委員会
の発言の解説」**
■放射線測定結果に基づく
我孫子市独自の冷静な対応
が急務
既に述べたとおり、放射
線量に対する不安が、市民の
間に広がっています。六月
議会の本会議や各常任委員
会で各議員から質問や意見
提言が出されるほど、原発
から約二百キロ離れた一ホ
トスポットの放射線量の測
定値が局的に高いレベルで
域であることが市民の間で
も、共通認識として六月議
会、今回の六月議会の環境

生活常任委員会、放射線量の
問題を取りあげ、我孫子市が
自もしくは東葛地域の連携の
でおこなってきた取り組みを確
認しつつ、市独自の方針や安全
基準の設定、そして緊急時の対
応方法とシステムの確立を意見
提言しました。

市民の安全、安心を守る見地
から、我孫子市は、市に拠点を
置く電力中央研究所に対して、
四月二十八日に市長名の文書を
もって市内の放射線量の測定調
査を依頼しました。それを踏ま
えて、電力中央研究所では、同
研究所の粕江地区にいる専門家
部隊による測定を五月二十七日
に実施しました。また、我孫子
市独自にも、六月十四日と十五
日の両日、市内の全保育園と幼
稚園、そして主要な公園でも独
自に放射線量の測定を行うと
もに、六月二十日には十四日と
十五日に高い測定値が出た箇所
を重点的に再測定するなど測定
を強化しています。

あわせて、東葛六市連名によ
る千葉県への放射線量の測定と
公表の要望(五月十七日)と測
定の実施(五月三十一日)、東葛
地区放射線量対策協議会の正式
設立や千葉県へのワーキンググ
ループ参加要請(六月八日)な
ど、東葛地域で連携した放射線
対策にも取り組んでいます。

今回の放射線量の問題では、
「国や東電の行うべきこと」と
「我孫子市のできるべきこと」と
しければならないことを明確化
し、右記のように我孫子市

独自の放射線量の測定と情報の
公開を行うていくことはとても
重要なことと考えています。加
えて、私は、我孫子市としての
統一方針と安全基準の設定、そ
して(数値が危険値に達するな
どの)緊急時の迅速かつ効果的
な対処方法とシステムを一刻も
早く確立していくことが大切に
なっていると考えています。

柏市の私立みくに幼稚園では
園庭を独自に測定し、表土を除
去するなどの取り組みを行いま
した。また、我孫子市の私立エ
ーデル幼稚園でも、今後、園庭
の土を入れ替え、園庭と遊具の
清掃を実施する旨、保護者に通
知しました。公立の施設等に
いても、測定値をもとにした科
学的な判断のもとに、必要に応
じて我孫子市としてしかるべき
対策を冷静に実施していくべき
と考えています。

**JR成田線、電力需要が心
配な夏季のダイヤ編成につ
いて!**

大震災直後の「計画停電」に
ともなうJR成田線のダイヤの
乱れは、私達の生活に大きな混
乱と支障をきたしました。一時
は帰宅時間帯を含む特定の時間
帯に六時間以上の運行空白帯が
設けられたり、日々のダイヤは
当日早朝の駅頭でしか判明しな
い(市職員がそれを市のHPに
日々更新するなど)の緊急対応も
実施)など、震災とこの緊急事
態ではあるものの他線と比較し
て到底納得できるものではない

ませんでした。
電力需給の逼迫が懸念される
今年の夏は、この二の舞となら
ないように、我孫子市を通じて
JR東日本旅客鉄道(株)に強
く働きかけを行って来ました。
その結果、六月七日にJR東日
本から、この夏の節電の取り組
みについての回答を得ることが
できました。それによれば、電
力需給が逼迫する夏季に向けて
「電力使用制限令」を受けてJ
R東日本も対応を迫られますが、
成田線のように一時間あたり三
本以下の運行路線では、九時
十二時、十二時十五時、十五
時二十時、二十時における電力の削減
率は全て「ゼロパーセント」と
する回答でした。従って、基本
的に運転本数の削減は行われな
いということになります。

**医療費助成、中学生まで拡
大へ!**

我孫子市では、子育て世代の
経済的負担軽減に向けて、今年
八月から子供医療費助成の対象
を中学生にまで拡大することを
決定しました。小学三年生まで
は受診時に受給券を提示して、
一回当たり負担額二百円を支払
う「現物給付方式」、小学四年生
から中学三年生までは後日精算
する「償還払い方式」で行いま
す。

今年の四月時点で、医療費助
成制度を中学生まで適用してい
るの千葉県内で十五自治体、い
る人口規模の大きい東葛地域は
我孫子市が初となり東葛地域は

♥#####♥

★宏と語る小さな小さな
ティーパーティーのご案内★

6月議会報告と「これで良いのか、我孫子市は」の視点で意見交換をする和
やかなティーパーティーです。
どうぞ、みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。

◆日 時:平成23年8月6日(土)
午後6時~7時半位

◆場 所:布佐南近隣センター会議室

◆その他 :事前予約等不要・参加費無料です。
(どうぞお気軽にご参加ください!!)

♥#####♥

八月からは中学生が対象に加わ
り、対象者は約三千五百八十人
増加し、全体で一万八千五百人
が制度の対象者となることにな
ります。

六月議会の主な争点

六月定例市議会は六月六日(二十三日)までの十八日間の会期で行われ、震災復旧工事に伴う五億九千四百五十万円の公共下水道事業特別会計補正予算、財産の無償譲渡(旧寿市民センター)の我孫子市商工会への無償譲渡(工事請負契約の締結(湖北中など四校の校舎耐震補強等大規模改造工事契約)、財産の取得(消防の高規格救急自動車、救助工作車の購入)、基本構想の一部改正(会期中の追加提案議案)についてなど十二議案が審議されました。その他、「地方消費者行政充実のための国による支援に関する請願」、「さわやかな環境づくり条例の改正に関する陳情」の二件が提出され、後者の陳情は否決されました。主な争点は議案七号の「財産の無償譲渡」であり、商工会への無償譲渡する建物が譲渡後も特定多数の市民に継続して貸し出されるにもかかわらず耐震診断が行われぬことや、建物の活用が商工会の事業になっていないこと、さらに契約内容が明確となっていないにも関わらず市の保有している土地も無償貸与となることなどが論議されました。

優先になつていないか等が争点となりました。なお、追加提案された議案十二号の「我孫子市基本構想(我孫子の将来の基本的方向を定めたもの)」の一部改正では、将来の人口想定を十五万人から十四万人に下方修正したことへの疑問や、大震災による社会変化等を基本構想にどのように反映させるかなどが争点となり、継続審議となることとなりました。

〈印南の属する「あひろ」の質問の骨子〉

I 震災後の我孫子市の対応

- ・被災者の受け入れ態勢
- ・市外被災地、被災者の支援(継続的支援・耕作放棄地の活用・被災者雇用・賃貸住宅の補助)
- ・市内被災地の復旧・復興対策(布佐東部地区復旧対策室)
- ・経済の活性化策(緊急融資・手賀沼花火の中止と新たな施策)
- ・市の重要施策の見直し(基本構想・地域防災計画・ハザードマップ)

II 子どもたちを守る為に(放射能対策)

- ・原発事故、今後のエネルギー施策に対する所見
- ・国、県、東電への働きかけ
- ・放射線量の測定・公表
- ・国の定めた基準値に対する所見

- ・校庭・園庭・公園などの土の入れ替え
 - ・外部被爆と内部被爆(屋外授業、給食食材のチェック、保護者の選択制の補償)
 - ・水道水の測定と公表
 - ・自然エネルギー(太陽光、風力等)の助成拡大と新設
 - ・耕作放棄地での太陽光発電施設の設置
- 〈詳細は別途、議会日より、HP等をご参照下さい。〉

〈印南は議会改革に邁進中!〉

印南は、現在、議会基本条例検討委員会、我孫子議会だより充実検討委員会に属して、議会改革に鋭意取り組んでいます。八月一日号の「議会だより」から文字が大きくなり、読みやすくなり、わかりやすくなりました。また、市議会をもっと、わかりやすく身近なものにするため、これまで、一問一答制や反問権の導入など議会の審議システムも積極的に変えてきました。

宏の独り言 今と昔(生涯未婚率データ)

現在の七十歳の内、既婚者はおよそ九十七パーセントであり、離婚経験者は約十パーセント程度となつています。つまり十人にならば、結婚後、離婚を経験せずには一生を送っていることになり、しかし、国立人口問題研究所の予測によると、今の二十代、三十代、四十代の生涯未婚率(※)は二十五パーセント程度(結婚したくとも

出来ない人も多く含まれているの(だろう)、離婚経験率は結婚した人の約三十六パーセント程度と推定される。つまり、四人に一人は一生独身で、また四人に一人は結婚しても離婚するとうことだ。結果、現在の二十代の若者達は、結婚して一生添い遂げる人は二人に一人もいないことが推測される。

時代の価値観、ライフスタイルの変化なのか、生涯未婚率や離婚率のデータには驚くばかりでは。しかし、驚いてばかりでは。これは今の若い世代の将来の生活設計が成り立たない。婚姻の実態だけ成り立たない。夫が非正規雇用である、あるいは夫婦ともフルタイム雇用である等、雇用のあり方も含めて、これまでに比して、現在の若者たちのライフスタイルは多様なものとなつてきている。それを前提に、公平かつ安心で使えるシステムを構築して、いかなければならない。従って、これからの社会保障制度では、「モデル」とする家族構成そのものについて、「想定外」を考慮に入れて構築する必要があると思つてゐる。

(※生涯未婚率：五十歳で一度も結婚経験がない人の割合)



